



## 変更前タスクとシステムヘルスチェック

- [Cisco Unified Communications Manager ノードの変更前タスク リスト, 1 ページ](#)
- [IM and Presence サービス ノードの変更前タスク リスト, 3 ページ](#)
- [システムヘルスチェック, 4 ページ](#)
- [変更前セットアップ, 7 ページ](#)

## Cisco Unified Communications Manager ノードの変更前タスク リスト

次の表は、Cisco Unified Communications Manager ノードの IP アドレスとホスト名を変更する前に実行するタスクを示しています。これらの手順は、スケジュールしたメンテナンス時間内に実行する必要があります。変更前のセットアップタスクを行う前に、システムヘルスチェックすべてを実行してください。

示されているタスクの詳細については、ノードにおけるシステムヘルスチェックと変更前セットアップの実行に関連するトピックを参照してください。



注意

これらのタスクを実行する際、期待する結果が得られない場合は、その問題が解決されるまで次の手順へ進まないでください。

表 1: Cisco Unified Communications Manager ノードの変更前タスク リスト

項目	タスク
システムヘルスチェック	
1	Cisco Unified Communications Manager サーバ内で DNS が設定されている場合、正引きおよび逆レコード (A レコードと PTR レコードなど) が設定されていて、DNS が到達可能で作動していることを確認します。

項目	タスク
2	クラスタにあるすべてのサーバが正常に稼働し、利用可能であること、また、ServerDown 警告が発生していないことを確認します。
3	クラスタにあるすべての Cisco Unified Communications Manager ノードでデータベースレプリケーションのステータスを調べ、すべてのサーバがデータベースの変更内容を正常に複製していることを確認します。
4	ネットワーク接続と DNS サーバ設定を確認します。
<b>変更前設定タスク</b>	
5	[Cisco Unified Communications Manager Administration] を使って、クラスタ内の全ノードのリストを収集します。後で使用するため、この情報を保持してください。
6	手動でディザスタリカバリシステムのバックアップを実行し、すべてのノードとアクティブなサービスが正しくバックアップされていることを確認します。  詳細については、『Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。
7	セキュリティが有効なクラスタ（クラスタセキュリティモード 1 - 混合）について、証明書信頼リスト（CTL）ファイルを更新します。既存の CTL ファイルへの新しい TFTP サーバの追加など、CTL ファイルの更新と管理の方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。  セキュリティをサポートしているすべての IP 電話では、CTL ファイルが必ずダウンロードされます。このファイルには、その電話からの通信が許可されている TFTP サーバの IP アドレスが記述されています。TFTP サーバの IP アドレスを変更した場合は、その新しい IP アドレスを CTL ファイルに追加する必要があります。これにより、該当の電話からその TFTP サーバと通信できるようになります。  <b>注意</b> 通信不可能な時間が無駄に発生しないように、TFTP サーバの新しい IP アドレスで CTL ファイルを更新してから、TFTP サーバの IP アドレスを変更するようにします。この手順を実行しない場合は、セキュリティが有効なすべての IP 電話を手動で更新する必要があります。

## 関連トピック

[システムヘルスのチェック](#), (4 ページ)

[Cisco Unified Communications Manager ノードの変更前セットアップタスクの実行](#), (7 ページ)

## IM and Presence サービス ノードの変更前タスク リスト

次の表に、IM and Presence サービス ノードの IP アドレス、ホスト名、ドメイン名、またはノード名の変更に進む前に実行するタスクを示します。これらの手順は、スケジュールしたメンテナンス時間内に実行する必要があります。変更前のセットアップタスクを行う前に、システムヘルスチェックすべてを実行してください。

示されているタスクの詳細については、ノードにおけるシステムヘルスチェックと変更前セットアップの実行に関連するトピックを参照してください。



注意

これらのタスクを実行しても期待する結果が得られない場合は、問題が解決されるまで続行しないでください。

表 2: IM and Presence サービス ノードの変更前のタスク リスト

項目	タスク
システムヘルスチェック	
1	データベースレプリケーションのステータスを調べ、導入に複数の IM and Presence サービス ノードがある場合に、すべてのノードでデータベースの変更内容が正常に複製されることを確認します。
2	ネットワーク接続と DNS サーバ設定を確認します。
変更前設定タスク	
3	手動でディザスタリカバリシステムのバックアップを実行し、すべてのノードが正しくバックアップされていることを確認します。 詳細については、『 <i>Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager</i> 』を参照してください。
4	すべてのプレゼンス冗長グループでハイアベイラビリティ (HA) を無効にします。HA を無効にする方法の詳細については、『 <i>Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager</i> 』を参照してください。
5	ホスト名を変更する場合、シングルサインオン (SSO) を無効にします。SSO の詳細については、『 <i>Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager</i> 』を参照してください。
6	現在ノードでアクティブなすべてのサービスのリストをまとめます。
7	ノードに対するすべての機能サービスを停止します。

項目	タスク
8	指定された順序で、ノードに対する IM and Presence サービス ネットワーク サービスを停止します。停止するネットワーク サービスの詳細なリスト、およびそれらを停止する順序については、IM and Presence サービス ノードの変更前設定タスクを実行する手順を参照してください。
9	IM and Presence サービスのノード名とドメイン名を変更する場合、Cisco AXL Web Service が Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードで起動していることを確認します。
10	IM and Presence サービスのノード名とドメイン名を変更する場合、Cisco Sync Agent サービスが起動している IM and Presence データベース パブリッシャ ノードであること、また Cisco Unified Serviceability GUI または Cisco Unified CM IM and Presence 管理のいずれかを使用して同期を完了していることを確認します。

#### 関連トピック

[システムヘルスのチェック](#), (4 ページ)

[IM and Presence サービス ノードの変更前セットアップタスクの実行](#), (8 ページ)

## システムヘルスチェック

### システムヘルスのチェック

導入環境にあるノードにおいて、変更前セットアップの一部として、および何らかのネットワーク識別子を変更した後に実行する必要がある変更後タスクの一部として、該当するシステムヘルスチェックを行います。



#### 注意

これらのタスクを実行しても期待する結果が得られない場合は、問題が解決されるまで続行しないでください。

この手順に記されている確認の中には、変更後の検証でのみ必要とされるものもあります。実行するシステムヘルスチェックに関する完全なリストについては、変更後タスク リストを参照してください。



(注) 変更前セットアップの一部としてシステムヘルスチェックを実行する場合、変更後タスクを実行するときのみ必要となる以下のステップはとばすことができます。

- Cisco Unified Communications Manager サーバリストに新しいホスト名または IP アドレスがあることを確認します。
- IP アドレス、ホスト名、またはその両方に加えられた変更がネットワーク上で確実に実装されていることを確認します。
- ホスト名に対する変更内容がネットワークで完全に実装されていることを確認します。

## 手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager サーバ内で DNS が設定されている場合、正引きおよび逆引き参照ゾーンが設定され、DNS が到達可能で作動していることを確認します。
- ステップ 2** アクティブな ServerDown 警告が出ていないことを確認し、クラスタ内のすべてのサーバが稼働していて利用可能であることを確かめます。最初のノードで、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) またはコマンドラインインターフェイス (CLI) のいずれかを使用します。
- a) Unified RTMT を使用して確認するには、Alert Central にアクセスし、ServerDown 警告が発生していないか調べます。
  - b) 最初のノードで CLI を使用して確認するには、次の CLI コマンドを入力してアプリケーションのイベントログを調べます。
- ```
file search activelog syslog/CiscoSyslog ServerDown
```
- ステップ 3** クラスタにあるすべてのノードでデータベースレプリケーションのステータスを調べ、すべてのサーバがデータベースの変更内容を正常に複製していることを確認します。IM and Presence サービスの場合、導入環境に複数のノードがあるときにはデータベースパブリッシャーノードでデータベースレプリケーションのステータスを調べます。Unified RTMT または CLI を使用します。すべてのノードで 2 のステータスが表示される必要があります。
- a) RTMT を使用して確認するには、Database Summary にアクセスしてレプリケーションのステータスを調べます。
  - b) CLI を使用して確認するには、`utils dbreplication runtimestate` を入力します。出力例については、データベースレプリケーションの出力例に関するトピックを参照してください。詳細な手順およびトラブルシューティングについては、データベースレプリケーションおよびデータベースレプリケーションのトラブルシューティングについてのトピックを参照してください。
- ステップ 4** 次の例に示されているように CLI コマンド `utils diagnose` を入力し、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認してください。

例 :

```
admin: utils diagnose module validate_network
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log

Starting diagnostic test(s)
=====
test - validate_network      : Passed

Diagnostics Completed
admin:
```

変更前のシステムヘルスチェックを行っている場合には、これで完了です。そうでない場合には、変更後の確認手順を続行してください。

**ステップ 5** (変更後の手順) 新しいホスト名または IP アドレスが Cisco Unified Communications Manager サーバリストに表示されることを確認します。[Cisco Unified Communications Manager Administration] で、[システム (System)] > [サーバ (Server)] を選択します。

(注) このステップは、変更後タスクの一部としてのみ実行します。

**ステップ 6** (変更後の手順) IP アドレス、ホスト名、またはネットワークの両方への変更が完全にはめ込まれていることを確認してください。クラスタ内の各ノードで CLI コマンド `show network cluster` を入力します。

(注) このステップは、変更後タスクの一部としてのみ実行します。

出力には、ノードの新しい IP アドレスまたはホスト名が含まれている必要があります。

例:

```
admin:show network cluster
10.63.70.125 hippo2.burren.pst hippo2 Subscriber cups DBPub authenticated
10.63.70.48 aligator.burren.pst aligator Publisher callmanager DBPub
authenticated using TCP since Wed May 29 17:44:48 2013
```

**ステップ 7** (変更後の手順) ネットワーク ホスト名への変更が完全にはめ込まれていることを確認してください。クラスタ内の各ノードで CLI コマンド `utils network host <new_hostname>` を入力します。

(注) このステップは、変更後タスクの一部としてのみ実行します。

出力で、新しいホスト名が対象 IP アドレスに外部解決されていることを確認してください。

例:

```
admin:utils network host hippo2
Local Resolution:
hippo2.burren.pst resolves locally to 10.63.70.125

External Resolution:
hippo2.burren.pst has address 10.63.70.125
```

### 関連トピック

- [データベース レプリケーションの CLI 出力例](#)
- [データベース レプリケーションのリセット](#)
- [データベース レプリケーションの修復](#)
- [クラスタ認証のトラブルシューティング](#)
- [データベース レプリケーションのトラブルシューティング](#)
- [ネットワークをトラブルシューティング](#)
- [データベース レプリケーションの確認](#)

## 変更前セットアップ

すべての変更前セットアップ作業を実行し、システムでIPアドレス、ホスト名、ドメイン、またはノード名の変更を行う準備ができていることを確認します。これらのタスクは、スケジュールしたメンテナンス時間内に実行する必要があります。

変更前セットアップを実行する前に、導入環境でシステムヘルスチェックを実行する必要があります。

## Cisco Unified Communications Manager ノードの変更前セットアップタスクの実行

IPアドレスまたはホスト名を変更する前に、以下の変更前セットアップタスクを実行します。これらのタスクは、スケジュールしたメンテナンス時間内に実行する必要があります。詳細については、変更前のタスク リストを参照してください。



注意

これらのタスクを実行しても期待する結果が得られない場合は、問題が解決されるまで続行しないでください。

### はじめる前に

導入でシステムヘルスチェックを実行します。

### 手順

#### ステップ 1

最初のノードの Cisco Unified Communications Manager Administration から、[システム (System)] > [サーバ (Server)] の順に選択し、[検索 (Find)] をクリックします。クラスタにあるすべてのサーバが一覧表示されます。後で参照できるように、サーバのこのリストを保持します。

クラスタ内のノードごとに、ホスト名と IP アドレスの両方のインベントリが保存されていることを確認します。

- ステップ 2** 手でディザスタリカバリ システムのバックアップを実行し、すべてのノードとアクティブなサービスが正しくバックアップされていることを確認します。  
詳細については、『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

- ステップ 3** セキュリティが有効なクラスタ（クラスタセキュリティモード 1 - 混合）について、証明書信頼リスト（CTL）ファイルを更新します。

既存の CTL ファイルへの新しい TFTP サーバの追加など、CTL ファイルの更新と管理の方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Security Guide*』を参照してください。

- （注） セキュリティをサポートしているすべての IP 電話では、CTL ファイルが必ずダウンロードされます。このファイルには、その電話からの通信が許可されている TFTP サーバの IP アドレスが記述されています。TFTP サーバの IP アドレスを変更した場合は、その新しい IP アドレスを CTL ファイルに追加する必要があります。これにより、該当の電話からその TFTP サーバと通信できるようになります。

- 注意** 通信不可能な時間が無駄に発生しないように、TFTP サーバの新しい IP アドレスで CTL ファイルを更新してから、TFTP サーバの IP アドレスを変更するようにします。この手順を実行しない場合は、セキュリティが有効なすべての IP 電話を手動で更新する必要があります。

## IM and Presence サービスノードの変更前セットアップタスクの実行

該当する変更前セットアップタスクを実行して IP アドレス、ホスト名、ドメイン、またはノード名が正常に変更されるようにシステムが準備されていることを確認します。これらのタスクは、スケジュールしたメンテナンス時間内に実行する必要があります。詳細については、変更前のタスク リストを参照してください。



- 注意** これらのタスクを実行しても期待する結果が得られない場合は、問題が解決されるまで続行しないでください。



- （注） ドメイン名またはノード名を変更しない限り、Cisco AXL Web サービス、および IM and Presence Cisco Sync Agent サービスが起動していることを確認する手順を実行する必要はありません。実行するタスクの完全な一覧については、変更前のタスク リストを参照してください。

### はじめる前に

導入でシステムヘルスチェックを実行します。



## 手順

- ステップ 1** 手動でディザスタリカバリシステムのバックアップを実行し、すべてのノードとアクティブなサービスが正しくバックアップされていることを確認します。  
詳細については、『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- ステップ 2** すべてのプレゼンス冗長グループでハイアベイラビリティ (HA) を無効にします。プレゼンス冗長グループの構成の詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Configure Presence Redundancy Groups」の章を参照してください。  
(注)
  - HA を無効にする前に、各ノードとサブクラスタのユーザ数の記録を取ります。この情報は、[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] の [システム (System)] > [プレゼンス トポロジ (Presence Topology)] ウィンドウで見つけることができます。
  - HA を無効にした後、それ以上の変更を加える前に、クラスタ全体にわたって設定が同期されるまで、少なくとも 2 分待機します。
- ステップ 3** ホスト名を変更する場合、OpenAM シングルサインオン (SSO) を無効にします。OpenAM SSO の詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- ステップ 4** 現在アクティブなすべてのサービスのリストをまとめます。後で参照できるように、これらのリストを保持します。
  - a) Cisco Unified Serviceability を使用してアクティブなネットワーク サービスのリストを表示するには、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター ネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
  - b) Cisco Unified Serviceability を使用してアクティブな機能サービスのリストを表示するには、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 5** Cisco Unified Serviceability を使用してすべての機能サービスを停止するには、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。機能サービスを停止する順序は重要ではありません。  
ヒント IP アドレス、ホスト名、または IP アドレスとホスト名の両方を変更する場合、この手順を実行する必要はありません。これらの名前の変更に対して、機能サービスは自動的に停止します。
- ステップ 6** [ツール (Tools)] > [コントロールセンター機能サービス (Control Center - Services)] を選択するときに、Cisco Unified Serviceability を使用して [IM and Presence サービス (IM and Presence Service)] サービスグループの下にリストされる以下のネットワークサービスを停止します。  
次の順序で、これらの IM and Presence サービス ネットワークサービスを停止する必要があります。
- 1 Cisco Config Agent
  - 2 Cisco Intercluster Sync Agent
  - 3 Cisco Client Profile Agent

- 4 Cisco OAM Agent
- 5 Cisco XCP Config Manager
- 6 Cisco XCP Router
- 7 Cisco Presence Datastore
- 8 Cisco SIP Registration Datastore
- 9 Cisco Login Datastore
- 10 Cisco Route Datastore
- 11 Cisco Server Recovery Manager
- 12 Cisco IM and Presence Data Monitor

**ステップ 7** Cisco Unified Serviceability ([ツール (Tools)] > [コントロールセンターの機能サービス (Control Center - Feature Services)]) を使用して、Cisco AXL Web Service が Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードで起動していることを確認します。

(注) ドメイン名またはノード名を変更する場合にのみ、この手順を実行します。

**ステップ 8** IM and Presence Cisco Sync Agent サービスが開始し、同期が完了したことを確認します。

(注) ドメイン名またはノード名を変更する場合にのみ、この手順を実行します。

a) Cisco Unified Serviceability を使用して確認するには、以下の手順を実行します。

- 1 [ツール (Tools)] > [コントロールセンターのネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
- 2 IM and Presence データベース パブリッシャ ノードを選択します。
- 3 [IM and Presence サービス (IM and Presence Service)] サービスを選択します。
- 4 Cisco Sync Agent サービスが開始していることを確認します。
- 5 Cisco Unified CM IM and Presence Administration GUI から、[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] > [同期ステータス (Sync Status)] を選択します。
- 6 同期が完了し、同期ステータス領域にエラーが表示されていないことを確認します。

b) IM and Presence データベース パブリッシャ ノードで Cisco Unified CM IM and Presence Administration GUI を使用して確認するには、[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] を選択します。

---